

<若手監督を発掘し続けてきた国内の映画祭の受賞作品が集結！>

Rising Filmmakers Project

次世代を拓く日本映画の才能を探して

開催のお知らせ

開催日:2019年1月26日(土)ー27日(日)

平素よりお世話になっております。

この度、国立映画アーカイブでは、映画制作に携わる若い世代の監督・スタッフの作品を広く紹介する企画「Rising Filmmakers Project 次世代を拓く日本映画の才能を探して」を開催する運びとなりました。若手監督を発掘し続けてきた国内6つの映画祭が一堂に集い、期待の監督の受賞作品を上映する濃密な2日間です。つきましては、ぜひとも本企画について貴媒体でご紹介いただきますよう、お願い申し上げます。

【上映作品】

- ①『岬の兄妹』監督：片山慎三
 ★SKIP シティ国際 D シネマ映画祭 国内コンペティション長編部門 優秀作品賞、観客賞
- ②『デッドコップ』『一文字拳 序章 最強カンフー少年 対 地獄の殺人空手使い』
 監督：中元 雄 ★カナザワ映画祭 期待の新人監督賞 (グランプリ) ※2 作品で
- ③『ED あるいは (君がもたらす予期せぬ勃起)』監督：西口 流
 ★ゆうばり国際ファンタスティック映画祭 オフシアター・コンペティション部門
 グランプリ
- ④『オーファズ・ブルース』監督：工藤梨穂
 ★ぴあフィルムフェスティバル PFF アワード グランプリ
- ⑤『センターライン』監督：下向拓生 ★福岡インディペンデント映画祭 グランプリ
- ⑥『チョンティチャ』監督：福田芽衣 ★田辺・弁慶映画祭 コンペティション部門 弁慶グランプリ

【見どころ】

1：若手監督を発掘し続けてきた国内6つの映画祭の受賞作が集まる、“新しい”日本映画を一度に見られる貴重な機会
 中長篇作品を対象に10回以上の開催実績をもつ国内各地の映画祭が推薦した、グランプリや優秀作品賞受賞作を上映。若い作り手たちによる多種多様な映画や、次世代を拓く日本映画の才能に出会えます。

2：ゲストと監督のトークイベントを実施
 各作品の上映前には、映画祭の担当者が作品を解説。さらに上映後には、ゲストと監督のトークイベントを行います。
 ＊ゲストの詳細は後日発表いたします。

3：国立映画アーカイブの新企画
 映画に携わる若い世代の育成・支援は、2018年4月に日本唯一の国立の映画専門機関として開館した国立映画アーカイブの重要な活動の1つです。本企画は、若い映画監督やスタッフ、映画祭や映画関係者たち、観客と共に作り上げる新しいイベントです。



- イベント名称：Rising Filmmakers Project 次世代を拓く日本映画の才能を探して
- 上映日時：2019年1月26日(土)・27日(日)
- 会場：国立映画アーカイブ 小ホール(地下1階) 定員：151名(各回入替制・全席自由席)
- 料金(前売券・当日券)：一般520円/高校生・大学生・シニア(65歳以上)310円/小・中学生100円
- *障害者(付添者は原則1名まで)、国立映画アーカイブ及び東京国立近代美術館のキャンパスメンバーズは当日券のみあり・無料
- 【前売券発売】12月18日【火】10時よりチケットぴあにて全上映回の前売券(全席自由席・各50席分)を販売
- 【Pコード：559-326】
- 掲載用のお問い合わせ先：03-5777-8600(ハローダイヤル) 国立映画アーカイブのホームページ→www.nfaj.go.jp
- 本特集の詳細→www.nfaj.go.jp/exhibition/rfp/

【本企画に関するお問い合わせ】国立映画アーカイブ 教育・事業展開室(元村・富田)
 【広報素材について】国立映画アーカイブ 広報・発信室(吉田)、教育・事業展開室(小林)
 電話：03-3561-0823 FAX：03-3561-0830 E-mail：pr@nfaj.go.jp

【上映作品紹介 (全6作品)】

1/26 (土)

『岬の兄妹』(89分・DCP・カラー・2018年)

11:00-13:05

SKIP シティ国際 D シネマ映画祭 国内コンペティション長編部門 優秀作品賞、観客賞

知的障害を持つ妹・真理子と二人暮らしをしている良夫。仕事を解雇され、妹に売春をさせて生計を立てようとするが、様々な試練が待ち受けていた……。

監督：片山慎三 (かたやま・しんぞう)

1981年生まれ、大阪府出身。助監督としてポン・ジュノ監督の『TOKYO!』(08)、『母なる証明』(09)、また、山下敦弘監督の『マイ・バック・ページ』(11)、『苦役列車』(12)などの作品に参加。

SKIP シティ国際 D シネマ映画祭 (2004年から15回開催)

デジタルで撮影・編集された映画のみを扱う国際映画祭。受賞後の支援も厚く、数々の作品を海外映画祭へ紹介。白石和彌(『凶悪』)、中野量太(『湯を沸かすほどの熱い愛』)、坂下雄一郎(『東京ウィンドオーケストラ』)、上田慎一郎(『カメラを止めるな!』)などが輩出。



© Shinzo Katayama

『デッドコップ』『一文字拳 序章 最強カンフー少年 対 地獄の殺人空手使い』(計93分)

14:05-16:15

カナザワ映画祭 期待の新人監督賞 (グランプリ) ※2作品で

『デッドコップ』(27分・Blu-ray・カラー・2017年)

警視庁捜査一課の刑事シラハタと同僚のクラタは、通称「カタナ女」と呼ばれる連続殺人鬼を追っていた。血で血を洗う戦いが今始まる……!

『一文字拳 序章 最強カンフー少年 対 地獄の殺人空手使い』(66分・Blu-ray・カラー・2018年)

海外武者修行から帰ってきた少年、一文字ユウタが、ひょんなことから出会った漫画家志望の男シラハタ、その友人である借金野郎クラタと共に、謎の殺人空手使いに立ち向かう青春ドタバタ喜劇!

監督：中元 雄 (なかもと・ゆう)

1991年生まれ、広島県出身。中学時代にジャッキー・チェンへのオマージュ映画の制作を始める。現在はWEBデザイナーの傍ら、専門学校で映画制作を学ぶ。必殺技：流星キック、電磁エンド、蛇拳、ヌンチャク

カナザワ映画祭 (2007年から12回開催)

北陸地方を代表する映画祭。若手監督作品のコンペ「期待の新人監督」は、粗削りながらも作家の衝動を感じさせる作品が並び、内藤瑛亮(『先生を流産させる会』)、小林勇貴(『全員死刑』)、二宮健(『THE LIMIT OF SLEEPING BEAUTY-リミット・オブ・スリーピング ビューティ』)、大野大輔(『ウルフなシッシー』)、岩切一空(『聖なるもの』)、阪元裕吾(『ハングマンズ ノット』)などが輩出。



『デッドコップ』



『一文字拳 序章 最強カンフー少年 対 地獄の殺人空手使い』

『ED あるいは (君がもたらす予期せぬ勃起)』(48分・Blu-ray・カラー・2017年)

17:15-18:40

ゆうばり国際ファンタスティック映画祭 オフシアター・コンペティション部門 グランプリ

母親の裸をみて勃起したことが原因で、ED(勃起不全)になってしまった少年の性春映画。笑って泣ける爽やかな作品。

監督：西口 洸 (にしぐち・ひかる)

1995年生まれ、大阪府出身。大阪芸術大学にて映画制作を学ぶ。現在は大阪芸術大学にて、機材係として働きながら映画制作を行っている。

ゆうばり国際ファンタスティック映画祭 (1990年から28回開催)

ファンタスティック映画を対象とした映画祭。ファンタランド大賞(観客賞)グランプリを獲得した『カメラを止めるな!』はその後、一大旋風を巻き起こした。井口昇(『片腕マシンガール』)、真理子哲也(『ディストラクション・ベイビーズ』)、入江悠(『SR サイタマノラッパー』)、松本花奈(『脱脱脱脱 17』)などが輩出。



『オーファンズ・ブルース』 (89分・DCP・カラー・2018年)

11:00-13:05

ぴあフィルムフェスティバル PFF アワード グランプリ

記憶が欠落する病を抱えるエマは行方不明の幼なじみのヤンを友人らと探しに。その存在と大事な思い出が消える前に彼女の再会の願いは叶うのか？少女の切なる叫びが聴こえるロードムービー。

監督：工藤梨穂 (くどう・りほ)

1995年生まれ、福岡県出身。高校2年生の時に、西加奈子の小説「さくら」に感動し、いつか映画化したいと映画の道を志す。京都造形芸術大学入学後、『サイケデリック・ノリコ』(15)、『サマー・オブ・ラブを踊って』(16)を制作。

**ぴあフィルムフェスティバル** (1977年から40回開催)

若手監督の登竜門として名高い映画祭。「PFF スカラシップ」など受賞者へ様々な支援を行っており、現在活躍する監督の中に出身者は多い。近年は、**石井裕也** (『川の底からこんにちは』、『舟を編む』)、**山戸結希** (『おとぎ話みたい』、『溺れるナイフ』)などが輩出。

『センターライン』 (67分・Blu-ray・カラー・2018年)

14:05-15:50

福岡インディペンデント映画祭 グランプリ

自動運転 AI の発展により、交通事故が激減した平成 39 年。新人検察官の米子天々音は、閑職部署である愛知県検交通部に配属される。処遇に不満な米子は、誤作動により中央線を越えて事故を起こした自動運転 AI を起訴しようとする……。

監督：下向拓生 (しもむかい・たくみ)

1987年愛知県生まれ、福井県育ち。大学時代は映画制作部に所属し、主に撮影・編集・スチル・アートワーク制作を担当する。一般企業就職後、脚本を勉強し始め、自主制作した作品が全国の映画祭で数々の賞を受賞。落語、一人芝居、演劇の脚本も手がける。

**福岡インディペンデント映画祭** (2009年から10回開催)

インディペンデント作品の上映を通して、国内・海外の制作者が交流する場を作ろうとスタート。受賞作品だけでなく応募作品をすべて上映する。**飯塚俊光** (『ポエトリーエンジェル』)、**塩出大志** (『時時巡りエブリデイ』)、**渡部亮平** (『かしこい狗は、吠えずに笑う』)、脚本『3月のライオン』『ピブリア古書堂の事件手帖』)などが輩出。

『チョンティチャ』 (40分・Blu-ray・カラー・2017年)

16:50-18:05

田辺・弁慶映画祭 コンペティション部門 弁慶グランプリ

ミャンマー人とタイ人のハーフとして日本に生まれたチョンティチャは、自らの生い立ち、居場所、名前、生活に違和感を覚えながらも、心に無駄な波風を立てぬよう、日々をやり過ごしていたのだが……。いつもより少し蝉の煩い、16度目の夏。

監督：福田芽衣 (ふくだ・めい)

1995年生まれ、兵庫県出身。東放学園映画専門学校卒業。入学当初は監督志望ではなかったが、短編『穴のなかり』で監督を務める。卒業制作として『チョンティチャ』を手がけ、第29回東京学生映画祭グランプリを受賞。

**田辺・弁慶映画祭** (2007年から12回開催)

近畿圏で注目株の映画祭。多くの映画ファンが集い、上映後のトークを盛り上げる。受賞作品は、テアトル新宿、シネ・リーブル梅田で上映される。**沖田修一** (『南極料理人』、『モリのいる場所』)、**瀬田なつき** (『嘘つきみーくんと壊れたまーちゃん』、『PARKS』)、**岨手由貴子** (『グッド・ストライプス』)、**今泉力哉** (『サッドティー』、『パンとバスと2度目のハツコイ』)などが輩出。